

# e-エクスプレス設定サンプル

## [ ] 前提ならびに準備

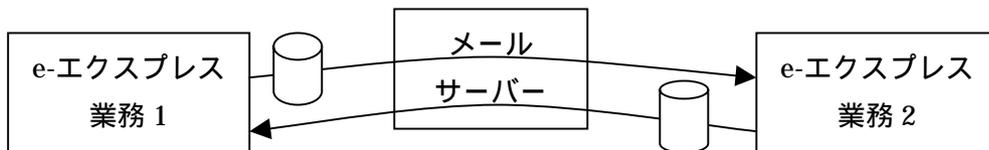
### A. はじめに

本記述は、弊社のメールサーバー上に設定されたテスト用のメールアドレスを使い、インターネットを経由して e-エクスプレス間で送信・受信を行うサンプルで、お客様ご自身のメール環境下で e-エクスプレスをご試用用に設定される際の参考にしていただくことを目的としています。

また、ここに記載の設定内容をそのままお客様の PC 上に設定し、インターネット経由、弊社メールサーバーに直接アクセスして送信、受信等行う事も可能です。但し、複数のお客様が同時にこれを行えば互いに錯綜して取り込まれる恐れがありますので、ご希望の方は事前に弊社にご連絡下さい。ご希望時間が重複する場合は調整させていただきます。尚、万一に備え、秘密データ等は決して流さないようにお願いします。

### B. 試用テストの概要

e-エクスプレスを 2 台の PC にそれぞれインストールし、相互に通信するのが本来の姿ですが、ここでは 1 台の PC に e-エクスプレスをインストールし、業務を 2 つ作成し（各業務はそれぞれ全く独立したプログラムと同様に稼働します。）送受信するときは各業務を切り替えて実行させます。これにより 1 台の PC で、あたかも 2 台の PC があるように通信が可能です。もし、PC が 2 台準備出来るときは、それぞれにインストールと設定をし、1 台から送信し、別の 1 台から受信するテストを行って下さい。



### C. 今回のテストで使用する設定関連情報

#### 1. メール・サーバーの基本設定情報(下記、業務 1、2 共通)

SMTP	mail.global.co.jp
POP 3	mail.global.co.jp

#### 2. クライアント側設定情報

各サイト	EDI メールアドレス	メールアカウント	パスワード	ライセンス(暗号)キーファイル
業務 1	ediadr1@global.co.jp	ediadr1%global.co.jp	phg28532	1P003011.key
業務 2	ediadr2@global.co.jp	ediadr2%global.co.jp	mjh74891	1P003012.key

3. 対向で通信する際使用する、送信フォルダーおよび受信フォルダー  
C:ドライブ直下に以下のフォルダーを作成します。

- [-]  ex\_業務1\_folder
  -  ex\_rcv-1 <--- 業務1用受信フォルダ
  -  ex\_send-1 <--- 業務1用送信フォルダ
- [-]  ex\_業務2\_folder
  -  ex\_rcv-2 <--- 業務2用受信フォルダ
  -  ex\_send-2 <--- 業務2用送信フォルダ

お客様ご自身のメール環境でテストを行う場合は、上記記載に相当する同様のものを作成してそれをご使用下さい。2個のライセンスキーファイルは弊社ダウンロードページからダウンロードして下さい。

[ ] 設定

< 業務 1 側の設定 >

まず、e-エクスプレスのインストールモジュールおよび、2つのライセンスキーファイルをダウンロードし、インストールモジュールをPCにインストールして下さい。以下、e-エクスプレスを実行させ、(自動的に業務1の)初期画面が表示されたところからご説明致します。

A. 環境設定 基本設定 の設定

1. 今回のテストで使用するメール設定関連情報

i) メールサーバ名情報

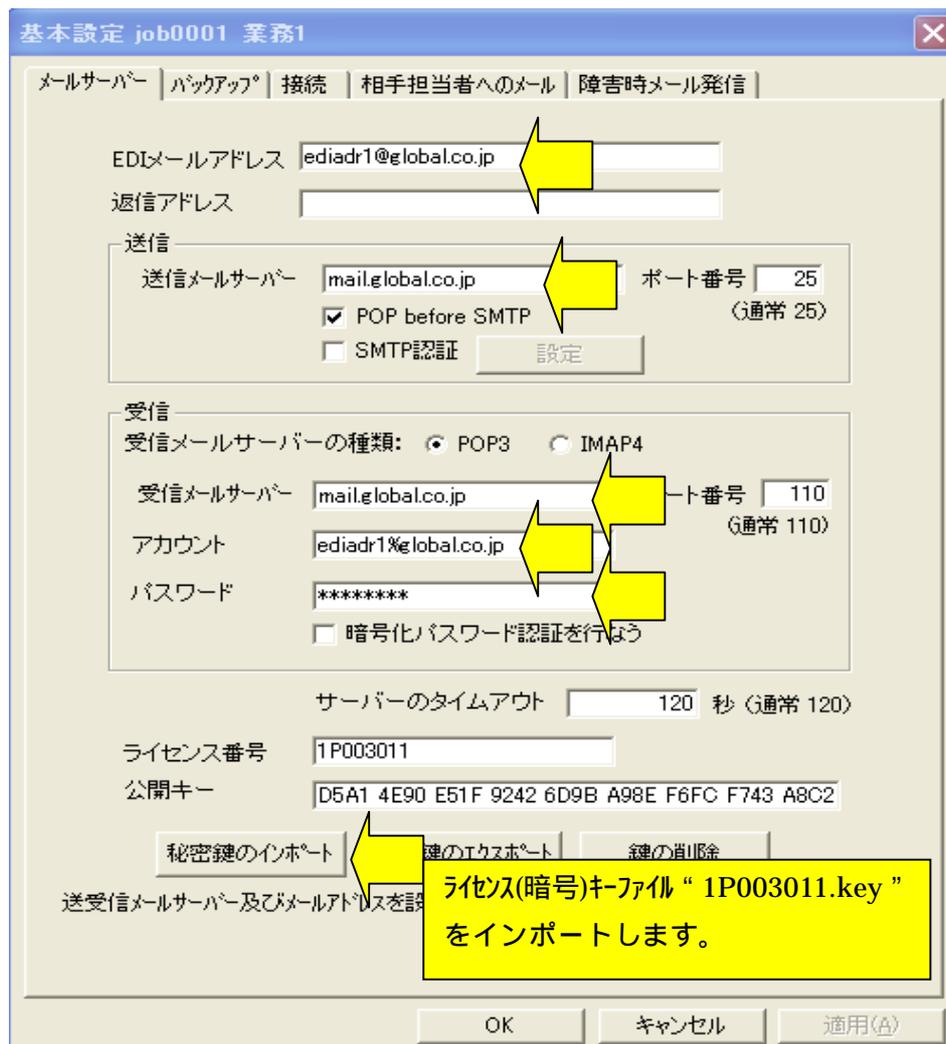
SMTP	mail.global.co.jp
POP3	mail.global.co.jp

ii) クライアント側設定情報

EDIメールアドレス	メールアカウント	パスワード	ライセンス(暗号)キーファイル
ediadr1@global.co.jp	ediadr1%global.co.jp	phg28532	1P003011.key

2. 基本設定 メールサーバタブ各欄の設定

上記1の情報を下記のように設定します。



### 3. 基本設定 中の他のタブの設定

基本設定の中の他のタブ即ち、バックアップ、接続、相手担当者へのメール、障害時メール発信の各タブは、今回当該機能を使用しないか、またはデフォルト値をそのまま使う等の理由で、新規設定は行いません。

### B. 環境設定 アドレス帳設定 の設定

こちら側の e-エクスプレスと送受信する全ての相手先のメールアドレス等を登録します。新規設定ボタンを押下し、相手のグループ名、名称、E D Iメールアドレス(以上の3項目は入力必須項目で、他の欄は全て任意入力項目です。)を入力します。担当者メールアドレスは入力必須ではありませんが、送信および受信時での担当者へのメール送信が指定された場合、ここに指定されたメールアドレス全てに同一メールが送られます。

メールアドレス帳保守(新規作成) job0001 業務1

メールアドレス帳保守(新規作成)

OK  
キャンセル

グループ	名称
EDI_Group	ediadr2
EDI用メールアドレス	担当者メールアドレス
ediadr2@global.co.jp	

通信相手先情報を入力します。  
グループ名、名称、E D I用メールアドレスの3項目は入力必須、他は全て入力任意項目です。

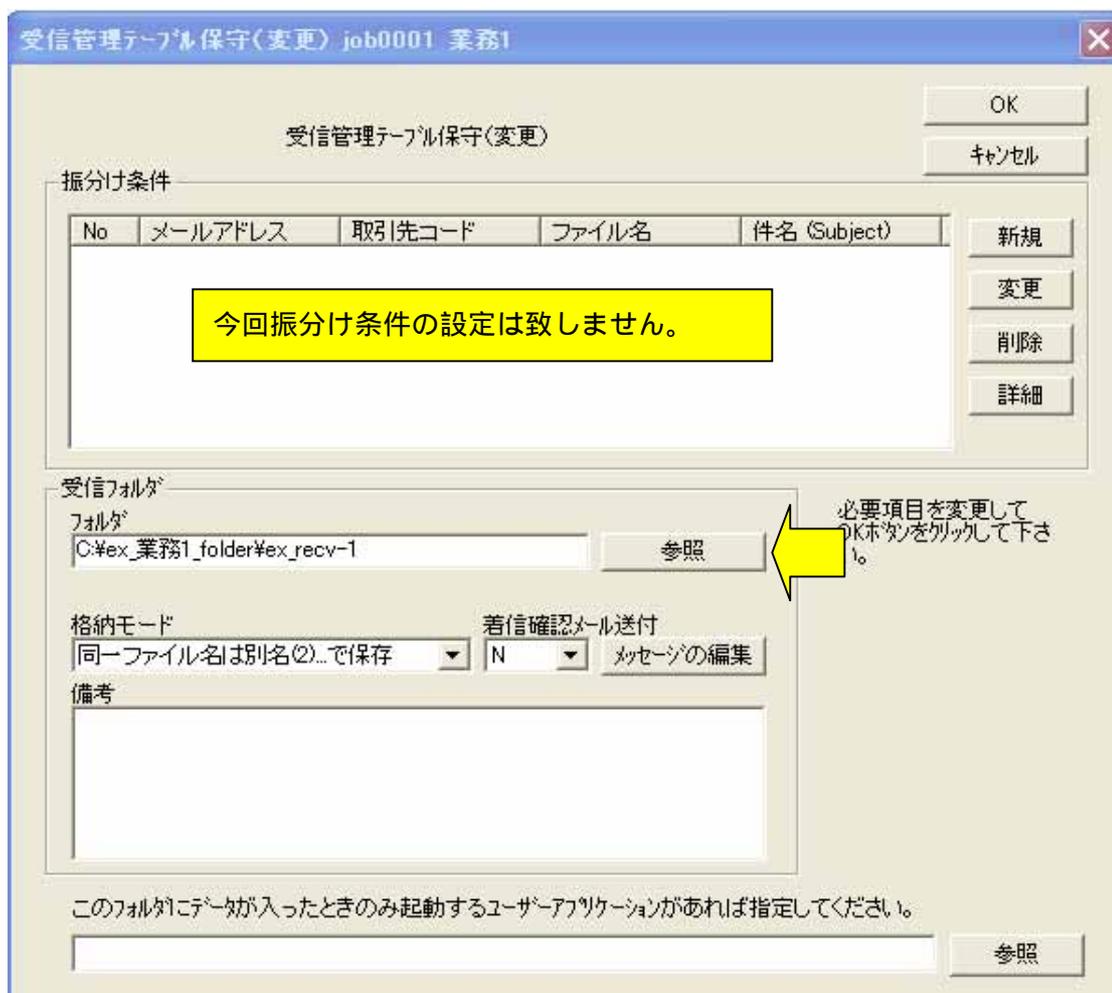
取引先コード	会社名
担当者部署	担当者氏名
担当者TEL	担当者FAX
備考	

必要項目を入力してOKボタンをクリックして下さい。

C. 環境設定 受信環境 受信フォルダー設定 の設定

Cドライブ直下に作成済みの下記、業務1用受信フォルダを受信フォルダーとして設定します。

- [-] ex\_業務1\_folder
  - [-] ex\_recv-1 <--- 業務1用受信フォルダ
  - [-] ex\_send-1 <--- 業務1用送信フォルダ



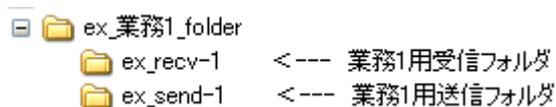
以上の設定により受信されたデータファイルは全て C:\ex\_業務 1\_folder\ex\_recv-1 のフォルダに入ります。

この後の、環境設定 受信環境 着信許可メールアドレス一覧と業務 AP 自動起動、の設定は今回行いません。

## D. 環境設定 送信環境 の設定

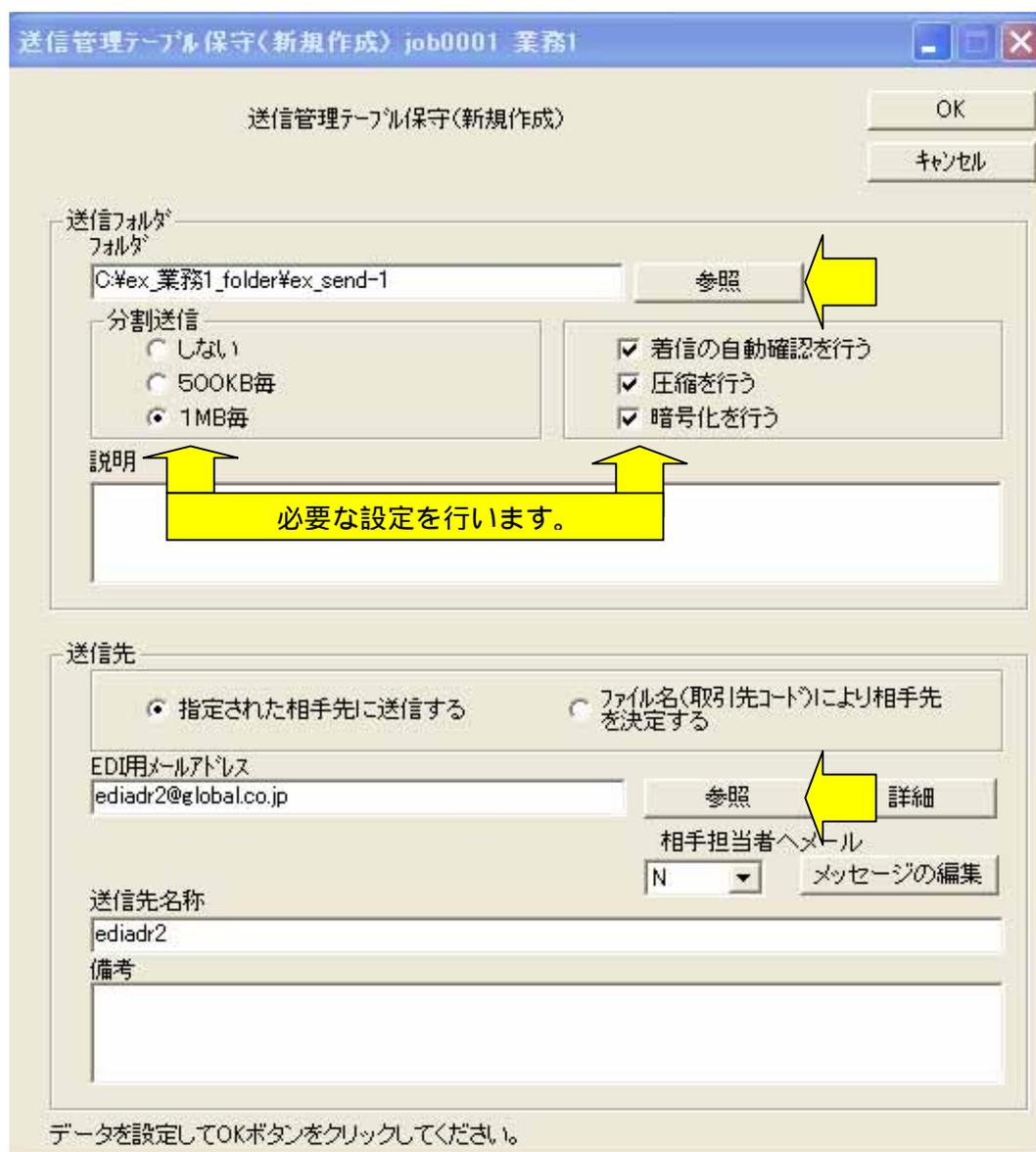
### 1. 環境設定 送信環境 送信フォルダー設定 の設定

新規作成ボタンを押下し、下記の業務 1 用送信フォルダー情報を、 に示す参照ボタンを使って送信フォルダ欄に設定します。



更に、 アドレス帳から送信先を選択して設定します。

分割、暗号化、圧縮、着信自動確認の設定を行います。



以上の設定により、C:\ex\_業務1\_folder\ex\_send-1 のフォルダーに入れられたファイルは、送信タスクが稼働した時、アドレス ediadr2@global.co.jp の e-エクスプレス側に送られます。

## 2 . 環境設定 送信環境 送信メッセージ編集 の設定

ここではこの設定は行いません。

通常で、e-エクスプレスから送信されたデータは必ず e-エクスプレスで受信され、添付ファイルのみが受信フォルダーに格納され、メールの件名や本文は表面に現れません。

以上で業務 1 側の設定は、後に記載している < 公開鍵の交換 > をのぞき、終了です。

### < 業務 2 側の設定 >

ご試用に使える PC が 2 台ある場合は、もう 1 台の PC にも e-エクスプレスをインストールし、下記相手先の設定情報を、これまでにご説明した設定方法と同様に設定して下さい。  
(この場合は 2 台目 PC 上 e-エクスプレスの、やはり業務 1 となります。)

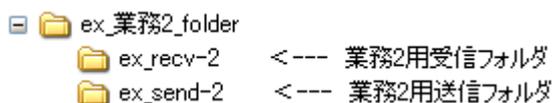
#### i) メールサーバ名情報

SMTP	mail.global.co.jp
POP 3	mail.global.co.jp

#### ii) クライアント側設定情報

EDI メールアドレス	メールアカウント	パスワード	ライセンス(暗号)キーファイル
ediadr2@global.co.jp	ediadr2%global.co.jp	mjh74891	1P003012.key

#### iii) 送信・受信フォルダ

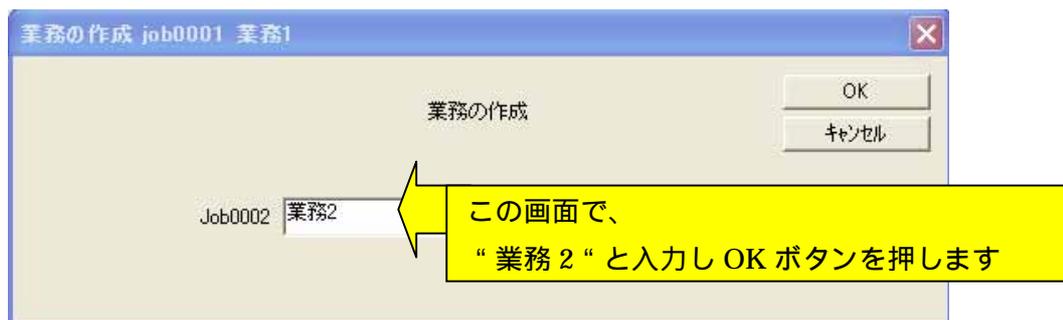


ここでは 1 台の PC 上の e-エクスプレスで、上記業務 1 に続き、業務 2 を作成・設定し(各業務はそれぞれ全く独立したプログラムと同様に稼働します。)、送受信するときは各業務を切り替えて実行させます。これにより 1 台の PC で、あたかも 2 台の PC があるように通信が可能です。

## E . 業務 2 の作成と設定

### A . 業務 2 の作成

- 1 . e-エクスプレス初期画面から、ファイル 業務 業務の追加、変更、削除 をクリック。  
新規作成ボタンをクリックすれば下記画面が出ます。



以上で “ 業務 2 ” が作成されます。

### 2 . 業務 2 の設定

下記、業務 1 の相手方情報を使って、上記、[ ] の A . から D . と同様の設定を行っていただければ、業務 2 の設定は完了です。

#### i) メールサーバ名情報

SMTP	mail.global.co.jp
POP 3	mail.global.co.jp

ii)クライアント側設定情報

EDIメールアドレス	メールアドレス	パスワード	ライセンス(暗号)キーファイル
ediadr2@global.co.jp	ediadr2%global.co.jp	mjh74891	1P003012.key

iii)送信・受信フォルダ

- ex\_業務2\_folder
  - ex\_recv-2 <--- 業務2用受信フォルダ
  - ex\_send-2 <--- 業務2用送信フォルダ

< 公開鍵の交換 >

e-エクスプレスは、極めて安全と言われる公開鍵方式を採用しています。そのため、送信する側と受信する側双方で設定時に一回だけ、双方の公開鍵の交換を行う必要があります。以下、業務 1 と業務 2 間でこれを行う方法を説明します。

A . 業務 1 の公開鍵を業務 2 側アドレス帳に設定

1 . 業務 1 の稼働と公開鍵のエクスポート（取り出し）

e-エクスプレス初期画面から、ファイル 業務 業務の追加、変更、削除 をクリックして、業務 1 を選択し、その環境設定 基本設定画面から公開鍵のエクスポートボタンを押下して公開鍵ファイル（[ediadr1@global.co.jp.pki](mailto:ediadr1@global.co.jp.pki)）をどこかの一時フォルダーに貯蔵します。

基本設定 job0001 業務1

メールサーバ | バックアップ | 接続 | 相手担当者へのメール | 障害時メール発信

EDIメールアドレス

返信アドレス

送信

送信メールサーバ  ポート番号  (通常 25)

POP before SMTP

SMTP認証

受信

受信メールサーバの種類:  POP3  IMAP4

受信メールサーバ  ポート番号  (通常 110)

アカウント

パスワード

暗号化パスワード認証を行なう

サーバーのタイムアウト  秒 (通常 120)

ライセンス番号

公開キー

送受信メールサーバ及びメールアドレスを設定してください。

## 2. 業務 2 側アドレス帳へのインポート

e-エクスプレス初期画面のファイル 業務 業務の追加、変更、削除から、業務 1 から 業務 2 への切り換えをを行います。

次に、環境設定 アドレス帳設定 を押下

アドレス帳保守画面中から当該通信先アドレスを選び変更ボタンを押下。

鍵のインポートボタンを押下し、業務 1 でエクスポートした公開鍵ファイル ([ediadr1@global.co.jp.pki](mailto:ediadr1@global.co.jp.pki)) をインポートします。OK を押して初期画面に戻して終了。

メールアドレス帳保守(変更) job0002 業務2

メールアドレス帳保守(変更)

OK  
キャンセル

グループ名	名称	
EDI_Group	ediadr1	
EDI用メールアドレス	担当者メールアドレス	
ediadr1@global.co.jp		
公開キー		
D5A1 4E90 E51F 9242 6D9B A98E F6FC F743 A8C2 99B1 CD7F 8328		
鍵のインポート	鍵のエクスポート	鍵の削除
取引先コード	会社名	
担当者部署	担当者氏名	
担当者TEL	担当者FAX	
備考		

必要項目を変更してOKボタンをクリックして下さい。

B. 業務 2 の公開鍵を業務 1 側アドレス帳に設定 (上記 A. と逆) します。

### 1. 業務 2 の公開鍵をエクスポート

上記 A. 1 と同様に(ediadr2@global.co.jp.pki)を一時フォルダに貯蔵して下さい。

2. 業務 1 側アドレス帳へのインポート

業務 2 から業務 1 への切り換えを行い、

上記 A . 2 と同様に一時フォルダ上の公開鍵ファイル(ediadr2@global.co.jp.pki)を、アドレス帳から [ediadr2@global.co.jp](mailto:ediadr2@global.co.jp) を選び、インポートして下さい。

以上で設定は終了です。

## [ ] 実行

### A . 送信と受信 (ワンショット)

#### 1 . 送信

業務 1 で e-エクスプレスを立ち上げます。

送信フォルダ (c:\¥ ex\_業務 1\_folder¥ex\_send-1) に送信データを入れます。

e-エクスプレス業務 1 初期画面の “送信” ボタン押下 次画面の “全件送信” ボタン押下により、送信フォルダ中のファイルが、ediadr2@global.co.jp 宛に送られます。送信後、送信フォルダは空になりますが、送信バックアップフォルダ中にプロテクト保存され、必要なときに取り出すことが可能です。

ワンショット送信動作は、設定されている全ての送信フォルダ中を調べ、データがあれば全て当該相手先に送信して動作は終了します。

上記 “全件送信” ボタン押下操作と同様の事柄を、手操作ではなく他のプログラム等から実行させるコマンドラインは下記の通りです。( \$ は空白と置き換えて下さい。オペレーションマニュアル 16 ページ . 他のプログラムからの起動方法を参照)

C:\¥Program\$Files¥Internet\_EDI\_Pro¥PROGRAM¥EDI\_Send.exe\$job0001/S

アプリケーション・プログラム (以下 AP) と自動連係したいときは、作られた送信データを送信フォルダに入れ、AP 終了までにこのコマンドラインを発行する事により可能です。

#### 2 . 受信

業務 2 への JOB 切り替えを行い、業務 2 上で “受信データ取込み” “着信データ取込み” の各ボタンを押下すれば上記 1 . でメールサーバー上に送られたデータを全て取り込み、受信フォルダ上に貯蔵します。

受信フォルダ (c:\¥ ex\_業務 2\_folder¥ex\_recv-2) にデータが届いているのが確認できます。

上記 “全件送信” ボタン押下操作と同様の事柄を、手操作ではなく他のプログラム等から実行させるコマンドラインは下記の通りです。( \$ は空白と置き換えて下さい。オペレーションマニュアル 16 ページ . 他のプログラムからの起動方法を参照)

C:\¥Program\$Files¥Internet\_EDI\_Pro¥PROGRAM¥EDI\_Send.exe\$job0002/R

## B. 常駐型送信と常駐型受信

ここでは、業務 1 側常駐型送信タスクと業務 2 側受信タスクを同時に稼働させ、業務 1 側送信フォルダにデータを入れればそれが自動的に業務 2 側受信フォルダに届くテストを行います。

### 1. 常駐型送信

業務 1 で e-エクスプレスを立ち上げます。

業務 1 初期画面の“送信”ボタン押下 次画面の“常駐型”ボタン押下 実行頻度を分単位で入力して OK ボタンを押下します。これにより上記 A.1. のワンショット送信動作が指定した頻度で間歇的に継続実行され、送信フォルダーに送信データを入れれば、自動的に送信されます。0 を入れればリアルタイム待ち受けモードとなり、送信フォルダーにデータを入れれば待ち時間無しに直ちに送られます。

常駐型で稼働しているときは、A P で送信データが出来たとき自由に送信フォルダーに入れば e-エクスプレスの送信タスクが自動的に送り、A P と e-エクスプレスによる送信の自動連係がなされることとなります。

ここでは実行間隔を 0 分（即送信）にして実行させて下さい。

### 2. 常駐型受信

上記 1. の送信タスクを実行させたまま、再度 e-エクスプレスを業務 2 で立ち上げます。

e-エクスプレス初期画面の“受信データ取込み”ボタン押下 次画面の“常駐型”ボタン押下 実行頻度を分単位（例えば 1 等）で入力して OK ボタンを押下します。これにより上記 1. のワンショット受信動作が指定した頻度で間歇的に継続実行されます。

ここでは実行間隔を 1 分で実行させて下さい。

### 3. 自動送信 自動受信

エクスプローラー等を使って、業務 1 側送信フォルダ( c:\¥ ex\_業務 1\_folder¥ex\_send-1) に送信データを入れれば直ぐに送られ、このフォルダは空にます。

業務 2 側受信フォルダ( c:\¥ ex\_業務 2\_folder¥ex\_recv-2)をエクスプローラーで見ているらば、最大 1 分程度の待ち時間で上記データが届きます。

### 4. コマンドライン

上記、“常駐型”送信ボタン押下操作（下記 ）および“常駐型”受信ボタン押下操作（下記 ）と同様の事柄を、手操作ではなく他のプログラム等から実行させるコマンドラインは記載の通り（ \$ は空白と置き換えて下さい）です。（オペレーションマニュアル 2 1 ページ 7 . 他のプログラムからの起動方法を参照）

C:\¥Program\$Files¥Internet\_EDI\_Pro¥PROGRAM¥EDI\_Send.exe\$job0001/Inn nn は送信操作頻度を分単位で入れます。 0 は即送信を示し常に使用可能です。

C:\¥Program\$Files¥Internet\_EDI\_Pro¥PROGRAM¥EDI\_Receive.exe\$job0001/Inn nn 分おきに読み込み動作を繰り返す。0 はメールサーバーが IMAP4 モードで稼働している時のみ使用可能です。

## C . 送受信時の排他制御

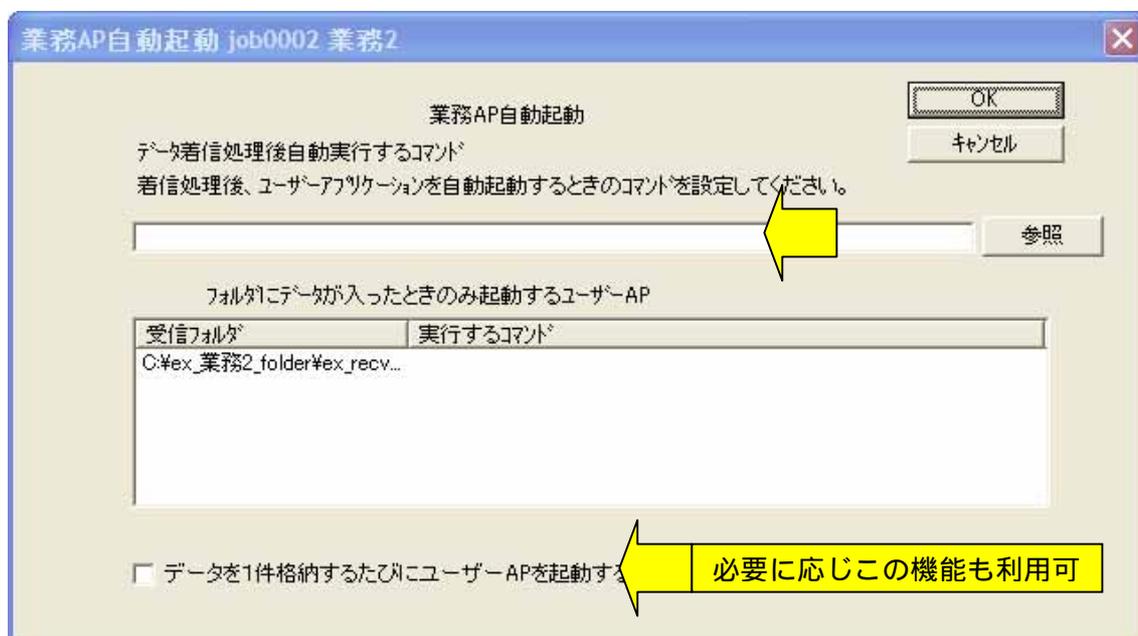
### 1 . 送信時の排他制御（考慮不要）

送信の際、A P 送信フォルダー e-エクスプレス送信タスク間の排他制御問題、即ち、e-エクスプレスが送信フォルダから送信データを取り出す時は、完全なもののみ取り出し、A P から送信フォルダーに挿入途中のファイルは取り出さない処理をしていますので、A P では一切考慮する必要はなく、自由に送信フォルダーにデータを入れて送信させることができます。

### 2 . 受信時の排他制御（考慮必要）

e-エクスプレスで受信する際、受信タスク 受信フォルダー A P 間の排他制御問題は、A P 側で考慮する必要があります。即ち、A P が受信フォルダーからデータを取り出す際、e-エクスプレス受信タスクが送信フォルダーに挿入途中のファイルは取り出さないような処理を行う必要があります。この処理はかなり面倒なプログラミングが必要ですが、下記のように業務A Pをe-エクスプレスに起動させることにより、この煩わしさを避けることができます。即ち、e-エクスプレス初期画面の環境設定プルダウンメニューから、

環境設定 受信環境 業務A P自動起動 の設定欄に業務A Pを指定すれば、e-エクスプレス受信タスクは全データを読み込み終わった時、かつデータが1件でもあった時のみ業務A Pの起動を行います。また、e-エクスプレスの業務A P自動起動機能で業務A Pが開始された場合、このA Pが終了するまで次の読み込み動作は開始されません。これにより排他制御問題は発生致しません。



以上。